

アカスジカスミカメの密度低減のため、ふ化盛期に合わせて地域全体で草刈を行いましょ。

現在の状況

- 1 アカスジカスミカメの有効積算温度から予測される越冬世代幼虫のふ化盛期は、表1のとおり県内各地で平年並である。

表1 アカスジカスミカメ越冬世代幼虫のふ化盛期（今後の気温が平年並に推移した場合の予測）

年次	一関	江刺	北上	大船渡	盛岡	二戸	軽米	宮古	松尾	遠野	久慈	湯田
令和5年	5/25	5/25	5/25	5/27	5/29	6/3	6/3	6/1	6/3	6/5	6/7	6/11
平年	5/24	5/24	5/25	5/28	5/28	6/1	6/1	6/1	6/1	6/5	6/7	6/11
(参考)令和4年	5/20	5/20	5/21	5/25	5/22	5/25	5/26	5/25	5/27	6/10	6/10	6/16

* 予測月日は「重久の報告(発育零点 12.1℃、有効積算温度 105.7 日度)」に基づき、5/14まではアメダス日平均気温実況値を、5/15以降は日平均気温の平年値(10年平均)を用いて算出。

- 2 1か月予報（5月11日、仙台管区气象台発表）では、向こう1か月（5月13日～6月12日）の平均気温は、平年より高い見込みであり、今後平均気温が平年より高い日が続くとふ化盛期が早まる可能性がある。
- 3 県北、沿岸部など、例年6月以降にふ化盛期を迎える地域では、改めて情報を提供するので参考とすること（予察情報第3号 5月31日発行予定）。

防除対策

- 1 アカスジカスミカメは、水田畦畔や牧草地で卵越冬する。
- 2 表1の時期を目安として、**ふ化盛期の前後5日間に、地域一斉に越冬場所である水田畦畔、水田周辺の牧草地、雑草地、農道等の草刈り**を行い、幼虫の密度低減を図る。
なお、草刈りのタイミングが早すぎても遅すぎても、十分な密度低減効果は望めないので注意する（平成19年度試験研究成果）。
- 3 草刈り後10日間程度は雑草の発生は抑えられるが、その後もアカスジカスミカメの増殖場所であるイネ科植物（イタリアンライグラス、スズメノカタビラ等）を出穂させないような管理を心がける。



写真 イタリアンライグラスに寄生するアカスジカスミカメ幼虫および成虫

【利用上の注意】

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は（1）使用基準の遵守（2）飛散防止（3）防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

